

水・その他

収れん味・苦味・渋味がする



原因

金気臭同様、配・給水管や給湯設備の管材から鉄、亜鉛、銅等が溶出すること起因し、特に開栓時や水の停滞する管末でこの現象が見られる。また高濁度時における凝集剤の過剰注入時にも渋味が発生する。

対策

開栓時の水をしばらく捨水するか、管の布設替え及び更生が必要である。凝集剤は渋味が発生しない量を適正に注入すること。

汲み置きした容器がヌルヌルする



原因

時間と共に残留塩素が揮散し、容器内で雑菌が繁殖したためにヌルヌルする。

対策

長時間の汲み置きは避ける。また、容器はよく洗って乾燥させ、保管する。

泡立ちがしばらく放置しても消失しない



原因

勢いよく水を出すと、空気が巻き込まれ、泡立つことがあるが、この場合はしばらく放置すると消える。泡が消えない場合は、食器等に付着した洗剤が原因と考えられる。

対策

洗剤は標準使用量を守り、すすぎを十分に行う。

残留塩素が検出されない



原因

水道使用量の少ない末端の配水地域では、水が停滞しやすく、残留塩素が検出されにくい場合がある。また、老朽化した配水管では、残留塩素の低下が著しい。受水槽を設置している学校、ビル等で水道水の使用量が少ないと残留塩素の低下が生ずる。

対策

残留塩素が検出されない管末では捨水を行い、将来的には管網のループ化を計画する必要がある。受水槽を設置している場合は、定期的な水質検査を行い、適正な管理と運用が必要である。

魚がへい死する



原因

水道水の残留塩素が大きな原因。また、水槽の水の入れ替えの際の急激な水温変化の環境の変化も原因となる。養殖池等では、土砂等混入による、溶存酸素の低下や農薬の混入、人為的な毒物混入等が考えられる。

対策

残留塩素の除去方法は、適量のチオ硫酸ナトリウムを添加するか、太陽光で揮散させた後に使用する。